西園寺殿鷹の奇特より鷹の為土器をとくやきられ
毛をとまくこのこと毛なる屋のうちゆも又同書より土器をもて屋をうき
祈くなる毛鷹まよりふとも毛なる毛て屋と毛れは二首の歌れ注
なとこくくくくくよ思ひめくもよ此歌をこしくるも鷹乃
毛のふれのもも注またとへて肉をよ土器をくへで肉を
引くく元の肉より成身軽くなくなるよ鷹もひとへに
頭へくくく毛を鉢蒔ひとんをくくくしくもとくのひぐくくいくくくも鷹をハうもくくくる肉あまる
ゆくよ叶ふへし云々

をもくくくくく